

令和5年度 附属研究所研究奨励交付金 重点領域研究(2年目)

# 子どもの最善の利益のための 看護師と保育士の協働と連携に関する研究

キーワード: 子どもの権利、専門職連携、保育士、看護師、協働

発表者: 吉川未桜、田中美樹

共同研究者: 池田孝博、中原雄一、吉田麻美、杉野寿子(研究代表者)

# はじめに

## 本研究チームのこれまでの取組み・絵本プロジェクトの着想

- 小児医療では、看護師と保育士が互いの専門性を尊重し、強みを活かしながら、入院中の子どもの成長発達を見据えた生活支援のための協働を実現することが求められる。
  - 先行研究では、小児病棟での看護師と保育士の協働に課題も指摘されており、小児病棟における看護師と保育士の協働の課題とニーズを明らかにする全国調査を実施した。
  - 結果、協働の困難感には看護師・保育士共に感じており、協働に対する両者の認識のズレがあること、看護師-保育士間の協働での相互性・対等性に偏りがあること、入院中の子どもに対する病棟保育を担う保育士の役割や遊びの重要性について、看護師との相互理解が必要であることが分かった。
- 
- ➔ 両職種が対等な立場で互いに尊重し、子どもに最もよいことのために協働できる風土の醸成が重要。
  - ➔ 看護学部・人間社会学部こどもコースの両学部生による医療・保健に関わる絵本製作プロジェクトを開始（専門職連携教育の実践）。

# 専門職連携教育における看護と保育の協働・連携の取り組み 絵本プロジェクト

看護2～3年生、こどもコース3～4年生。  
学生が主体となり企画・作成・討議。

(看護学生が医療・保健的内容を、こどもコース学生が幼児に合った言語表現や絵本作成を担うなど、それぞれの強みを発揮する)



## 《スケジュール》

2023年1月：11名が2グループに分かれて活動開始し、テーマ検討。

3月：福岡市立こども病院・マクドナルドハウス訪問。病棟保育士に、対象年齢や内容のアドバイスをいただいた。マクドナルドハウスでは、家族と離れて療養する子どもの気持ち、病気の子どもを支える親やきょうだいの思いなどを理解する機会を設けた。

4月～：イラスト・セリフを検討。試作の発表会、小児科医師のコメントを得て、さらに修正。

2024年3月：絵本完成予定

# 専門職連携教育における看護と保育の協働・連携の取り組み 絵本プロジェクト

## ピーマンマンチーム

- \* 1型糖尿病の幼児後期向け  
(既製品少ない)
- \* なぜ血糖測定やインスリン注射をしなければならぬのかを、擬人化したインスリン等を用いて分かりやすく説明

➡制作の最終段階



## ノンタンチーム

- ①点滴 ➡製本中
  - \* 幼児後期向け
  - \* 点滴の役割、約束してほしいことなどを分かりやすく説明
- ②MRI ➡製本中
  - \* 幼児後期向け
  - \* MRIがどんな検査か、検査中はどうなるかなどを分かりやすく説明
- ③レントゲン ➡検討途中
  - \* 幼児前期向け (しかけ絵本)
  - \* 骨だけでなく、胸部や腹部のレントゲンについても紹介
  - \* 人間だけでなく、動物も登場

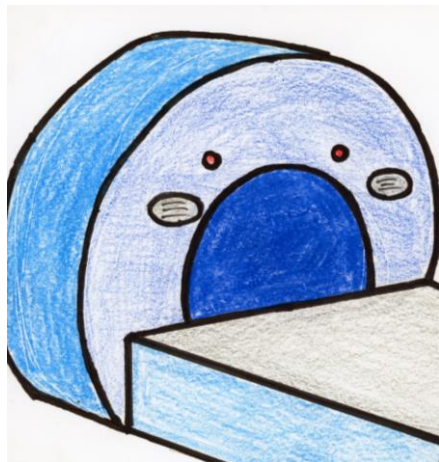
# 絵本① がんばれ!! てんてきマン



- 対象：幼児（3・4歳～）
- 治療のための点滴管理の重要性は高い
- しかし、子どもにとって点滴は非日常であり、不快。  
できれば早くなくなっしてほしいもの。
- さらに、子どもの認知力では重要性の理解が十分できず、外  
そうとしたり、踏んでしまうこともある
- そのため、子どもの発達段階の特徴（アニミズム）を活かし、  
点滴マンというヒーローを用いて、ストーリーを展開。

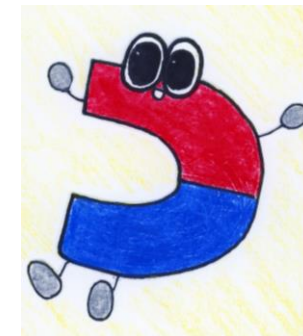
\* 絵本の完成版 1 冊は、附属研究所に設置。

デジタル版は、HP上でアクセス方法を掲示予定。



ノタンチーム

## 絵本② MRIってなあに？



- 対象：幼児後期以降（5歳以上）
- MRI検査では、強力な磁力が発生するため、検査室入室時の注意点がある。
- また、検査中は動かずじっとしておく必要があるが、20～30分と時間も長く、また工事現場のような大きな音が継続するため、子どもにとってはとても負担が大きい（じっと出来ない場合は、鎮静剤を使用して検査する場合もある）。
- 鎮静をせずにMRI検査を頑張る子どもたちのために、絵本を作成。

\* 絵本の完成版1冊は、附属研究所に設置。

デジタル版は、HP上でアクセス方法を掲示予定。



# 絵本の 試作発表会 (8月)

写真：  
1型糖尿病の  
幼児向け絵本  
ピーマンマンチーム



# 完成した絵本（一部）







# 今後の予定

1. 絵本の製本完成、医療機関への配布
2. 多言語（英語・中国語など）での絵本制作
3. 制作した絵本について、医療現場からの意見聴取
4. 本プロジェクト参加学生への意識調査（活動について）
5. 臨床と協力し、内服やエコーなどの絵本制作